浄泉寺報
第９号
２０１７年
お盆

お盆の時にお荘厳される浄泉寺本堂の切籠灯籠

生と死を考える（中編）

浄泉寺住職　望月廣三

前編（浄泉寺報第八号-春彼岸-掲載）は百四歳という、めったにないほど長生きされたご門徒の婆さんの話でした。

百歳になられたとき私が婆さんに、こう言いました。

「百歳になられたんですねェ。おめでとうございます」

すると彼女はこう答えたのです。

「お住ッさんやから正直に言いますが、ほんまはなにも嬉しないのです。わたしには八人の子どもがいましたが、七人に死なれました。そんな辛い目に遭うたのも長生きしすぎたからですよ」と、しっかりした口調で告げたのです。

私はこの現実認識に、感動をさえ覚えたことでした。

「それはすごいことですねェ。素晴らしい認識ですねェ」

あきらめの気持ちにもいろいろ種類があるでしょうが、婆さんの“あきらめ”はまさしく「諦念」（道理をさとる心）と言えるものだと思ったのです。

健康で長生きすることが人生の目的ではないことは、明らかです。人は何のために生きるのか。この命題には、たぶん大前提など存在せず、人それぞれにおいて明確にするものではないか、と思われます。百四歳まで生きた婆さんにどんな人生の目的があったか、私には分かりません。農家に嫁いだ彼女は、ふつうの農婦の一人だったかもしれません。しかし、彼女の遺された「長寿は人生の目的ではなく、むしろ苦を与えるものである」（要約すればそうなります）という言葉は私に、大いに傾注させられるものがあったのです。人は誰しも、新しい人生の意味を考えねばならないし、発見しなければならないと思い知らされます。そのために人は“生きている”のではないか、と。

私の先師は安岡章太郎という文学者でしたが、師はかねがね「書くことは生きることだ」と口にされていました。平気の平左で言ってのける師の態度に私は圧倒され、畏縮したものです。

（次号につづく）

毎月の浄泉寺同朋会での住職法話

お内仏（仏壇）に座る ⑦　～ お 盆 －亡き人を訪ねる－ ～

このコーナーでは、皆さんのご家庭にあるお内仏（仏壇）についてのアレコレを連載します。

葬儀のことを「お弔い」ともいいました。弔うとは「訪う」、つまり亡き人を訪ねていくということです。亡き人との思い出は様々にあるでしょうし、その思い出を通して「今、ここに在る」自分の人生を見つめる機縁にもなるでしょう。そして、亡き人の”いのち”を訪ねてみると「命あるものは、必ず死んでいくんやで」という、私たちが普段忘れていることを、人生の終わりにあたって、無言のまま真剣に私に教えてくださったことがわかります。

お盆は、亡き方をご縁にご本尊（本当に大切なこと）に手を合わせる大切な時間です。亡き方は、長い短い、良い悪いを超えて、各々その命を生き切った仏様です。お盆をご縁に、この限りある命に気づかされ、私の「今」と向き合いたいと思います。　（浄泉寺若院・釋亜世）

お寺からのお知らせ ①

◎ 秋彼岸のお参り ◎

９月の秋彼岸のお参りは左記の通りです。

お留守の予定がある場合には、事前にお寺までご一報ください。

二十　日(水) 丸山・稲垣様

二十一日(木) 阿那賀・伊加利・志知・湊・内田様

二十二日(金) 八木・海岸通・山手・栄町・宇山・本町・上内膳・下内膳

二十三日(土) 由良・天川・千草・上物部・物部・塩屋・小路谷

二十四日(日) 大野・金屋・池ノ内・宇原・桑間・五色・佐野・安乎・志筑

※彼岸会は、二十四日(日)午後２時～

浄泉寺本堂にて厳修いたします。お誘い合わせ、ぜひお参りください。

お寺からのお知らせ ②

◎ 報恩講 ◎

十二月十六日(土)・十七日(日)

※真宗門徒にとって最も大切な法要です。

詳細は次号(秋彼岸発行)に掲載。

● 同 朋 会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。どなたでもご参加いただけます。日程はお寺までお問い合わせください。

平成 29 年(2017 年) 年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。

一周忌	平成 28 年(2016 年)亡
三回忌	平成 27 年(2015 年)亡
七回忌	平成 23 年(2011 年)亡
十三回忌	平成 17 年(2005 年)亡
十七回忌	平成 13 年(2001 年)亡
二十五回忌	平成 5 年(1993 年)亡
三十三回忌	昭和 60 年(1985 年)亡
五十回忌	昭和 43 年(1968 年)亡

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３　電話 0799-22-4798